

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	松原市新図書館建設事業	階数	地上3階地下1階
建設地	大阪府松原市	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	#REF! 人
地域区分	5地域	年間使用時間	300 時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年12月 予定	評価の実施日	2018/12/
敷地面積	1,644 m ²	作成者	中野剛臣(鴻池組)
建築面積	1,046 m ²	確認日	
延床面積	2,987 m ²	確認者	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	<p>意匠・設備・構造担当が環境性を高めるために協調し、公共建築物にふさわしい計画としている。窓開口を一般的な用途の建物に比べ減らし、外皮性能を高めている。照明は星光を利用、視環境に配慮した計画としており、設備は輻射空調を採用して快適性を高め、節水型便器を積極的に採用して資源を有効活用している。構造的にも、建物の更新時に余裕を持たせた計画としている。敷地外環境に対しても公共建築物として十分配慮している。</p>	
その他	0	
Q1 室内環境	<p>揮発性有機化合物対応に十分配慮し、建物全体に対しF☆☆☆☆認証の建材を用いている。空調設備は輻射空調設備を導入することで、快適性を高めている。また、湿度や換気量は基準を満たすよう適切に設備を選定し、ゾーニ</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>内装はバリアフリーに配慮し、照明、設備と十分に打ち合わせをして建物コンセプトを策定している。設備は節水型器具を積極的に採用し、災害時の機能をなるべく維持できるように設備、配管支持方法を計画している。更新時のメン</p>
Q2 サービス性能	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>当該敷地の既存の池を完全に埋めたい計画としており、池との親水性、隣接している親水公園との連続性を担保している。屋上やテラスには緑化を施し、敷地外の親水公園の樹木と一体的になるように配慮を行っている</p>	<p>LR1 エネルギー</p> <p>省エネルギーに配慮し、BPImが低い値となるよう高い外皮性能を持たせている。また、自然採光、自然通風を取り入れる形での自然エネルギー利用を行っている。運用においても消費エネルギー量を適宜確認し、省エネ</p>
LR1 エネルギー	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>ウッドデッキ等にリサイクル資材を積極的に採用している。また、節水型便器の採用により水資源の節約に貢献する。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>公共施設として交通負荷の軽減、そして廃棄物処理量の抑制に貢献する。周囲への騒音・振動・悪臭に配慮した計画とし、さらに屋上緑化を採用、気象データを用いた風向と周囲環境への影響、建築設備からの排熱の検討を行い、建築計画、</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H30-0113

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	松原市新図書館建設事業						
		建設地	松原市田井城3丁目103番1、同103番2						
		用途/区分	集会所						
【評価結果】		CASBEE 総合評価					A		
①	CO2削減						3		
②	みどり・ヒート アイランド対策						3		
③	建物の断熱性						4		
④	エネルギー削減						2		
⑤	自然エネルギー直接利用						○		
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
エネルギー消費量の報告						報告しない			
【評価項目】									
項目		評価内容				スコア	評価		
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.0	3		
②	みどり・ヒートアイランド対策								
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				2.0	3		
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価				4.0			
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価				3.0			
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				4.0	4		
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				2.0	2		
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				4.0	○		
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない		
その他									
		技術の名称			考慮事項				
先進的技術の導入									
特に配慮した事項		設計では窓開口を一般的な同用途の建物に比べ減らし、外皮性能を高めている。照明は昼光を利用、視環境に配慮した計画としており、設備は輻射空調を採用して快適性を高め、節水型便器を積極的に採用して資源を有効活用している。室内に加え、敷地外環境にも公共							